

E S D推進ネットワーク全国フォーラム2022
セッション2
「気候変動や脱炭素をテーマにした地域事例紹介」

近畿地方事例報告

風呂敷から考える 持続可能な未来

滋賀県地球温暖化防止活動推進センター
(公財) 淡海環境保全財団

来田 博美

延暦寺学園 比叡山高等学校

伊藤 由季



しがCO2ネットゼロ
ムーブメント

(1) 単元の目標①

風呂敷を入口にして

自らの価値観と

ライフスタイルの変革を促す



(1) 単元の目標②

風呂敷を入口にして

脱炭素社会を実現するための

社会変革を先導する人材を育成する



(2) 対象と単元

- | | |
|----------|-----------|
| ① 学年 | 高校 2 年生 |
| ② 類・コース | Ⅱ 類 S コース |
| ③ 教科(科目) | 家庭(家庭基礎) |
| ④ 単元 | 持続可能な社会環境 |
| ⑤ 時間 | 全 10 時間 |



(3) 授業づくりのポイント

- ① 発問中心の応答的な授業展開
- ② 体験的な学習活動を重視
- ③ 協働的、主体的な学習の実践



(4) 単元デザイン

第1次「見つめる」⇒1時間

見つめる *45分×1コマ

問 い 「あなたが一つだけつねに携帯できるとしたら①～④のどれを選びますか？」

①レジ袋 ②紙袋 ③エコバッグ ④風呂敷

- ・かさばらない
- ・すぐに手に入る
- ・濡れたものでもOK
- ・軽い

- ・すぐに手に入る
- ・ブランドのロゴがおしゃれ

- ・おしゃれ
- ・丈夫で繰り返し使える
- ・かさばらない
- ・環境にやさしそう

- ・ふろしきという手もあるな…でも使ったことないしな…

体 験 「実際に①～④にいろいろなモノを入れてみよう」

①レジ袋 ②紙袋 ③エコバッグ ④風呂敷

- ・重いモノだと破けたり伸びたりしそう
- ・持ち手が手に食い込む
- ・大きいモノは×
- ・たくさんモノは×
- ・中が透ける

- ・重いモノだと破けそう
- ・濡れたモノだと破けそう
- ・中身がゴソゴソしてフィット感がない
- ・四角じゃないモノはきれいに見えない
- ・汚れが目立つ

- ・丈夫だし安心
- ・繰り返し使える
- ・おしゃれ
- ・大きすぎるモノは×
- ・多すぎると×
- ・エコだし①②よりは使いやすいそう

- ・包むモノに合わせて形が変わるのが○
- ・ためればコンパクト
- ・間口の制限がない
- ・大きいモノでも○
- ・たくさんモノも○
- ・濡れても汚れても洗える

◎器としての風呂敷の良さと同時に問題点にも気づかせたい

- でも…
- ・包み方がわからない
- ・おしゃれじゃない
- ・家にあるかな？
- ・どこに売ってるの？



(4) 単元デザイン

第2次「調べる」⇒1時間



II 調べる *45分×1コマ

問 い 「風呂敷にできることって何でしょうか？ 動詞で表現してみよう」

遊ぶ ④	運ぶ ① ② ③ ④	ゴミを減らす ③ ④	洗う ③ ④	包む ④	背負う ④	飾る ④	贈る ② ③ ④	敷く ④	拭く ④	被る ④	覆う ④	収納する ④
---------	------------------------	------------------	--------------	---------	----------	---------	-------------------	---------	---------	---------	---------	-----------

◎ふろしき1枚に無限の可能性があると気づかせたい

▼すなわち

◎この単元の目標は次にあることを押さえない
**「風呂敷の本質は最小限のものを最大限に生かせること
 それこそがサステイナブルであること」**

▼ただし

◎風呂敷の使い方を知ってこそ活用ができ、モノに頼る暮らしから知恵を使う暮らしにシフトチェンジできる⇐A

◎なぜサステイナブルなのかを理解することで風呂敷を使う動機がさらに明確になる⇐B

▼そこで

◎A・Bを知る機会として、次の授業は講師の先生をお招きすることを予告する

おお！
風呂敷の
汎用性や融通性
ってすごいなあ

1 何回でも使える	6 袋の形をしてないから、袋以外のものとして使える。
2 色々な使い方ができる	7 洗って使えるサステイナブルな布
3 使い方が多い	8 使いたい用途に応じて形を変える ことができ、物を運ぶことができる。
4 物を運ぶのみならず、ユーザーによって さまざまな使い方を見出すことができる 可能性を秘めているというところ。	9 「運搬」以外にも使用用途に合わせて 形状を変えることができる。
5 自由自在に形を変えられるので 多くのことに使うことができる。	10 あらゆる用途で使える。

グループ毎に風呂敷の本質を考え iPad に記入⇒クラスで共有

(4) 単元デザイン

第3次「深める」⇒2時間

III
深める
*45分×2コマ

拠点プログラム 「魔法の布～風呂敷から暮らし方を見直そう」
滋賀県地球温暖化防止活動推進員 山本悦子先生

- ◎学習の視点その1「持続可能な社会の構築」←講義「文化伝承とサステナビリティ」30分
- ◎学習の視点その2「生活文化の継承と創造」←体験「真結びと風呂敷の活用方法」60分

▼この視点を大事にして

体験 「真結びと風呂敷の活用方法」講師 山本悦子先生を含む推進員のみなさん5名程度

◎真結びを教わる←この結び方、ほどき方がふろしきを自在に使いこなすために最も大切

←一度結べばはどけないのに、ほどきたいときには魔法のようにほどける

- ◎シンプルエコバッグを教わる
←真結び、一つ結びを使って簡単につくることができる
- ◎「災害時の活用方法」を班ごとに考えさせる。
←非常時には教わったことが行動のベースになる
←生徒のアイデアが形になるよう
推進員さんにアドバイスをいただく

頭から被る？

荷物を運べるよね？

敷物にしたりとか？

講義 「文化伝承とサステナビリティ」講師 山本悦子先生

◎視覚的な情報提供を基本として、生徒への発問を増やしたい

- ・なぜ風呂敷というのか？
- ・なぜ風呂敷は消えたのか？（高度経済成長期に廃れる）
- ・なぜ今風呂敷なのか？

風呂敷は確かにサステナブルだけど…

◎日本の文化＝目的に合わせてモノを柔軟に変化させる
サステナブルだけど…

でも現代のライフスタイルに風呂敷があうのかな？

西洋の文化＝目的に合わせてモノを使い分ける
セキュリティに優れオシャレだけど…

風呂敷の活用法を知りたいな…

◎大量生産、大量消費が生む使い捨て文化がもたらした地球の悲鳴

◎脱炭素につながる行動変容こそが大切で、
今こそ過去の知恵を未来のために生かす時！

西洋の文化の良さを風呂敷に組み込めたら…

体験 「プレゼンテーションに向けて」

◎班ごとに風呂敷の新しい（一押し）の使い方を考えてみる

⇒できるだけ実際に使ってみてほしい使い方！

⇒包み方に目新しさはなくても、何を包むかで若い発想を引き出せないか

⇒生徒同士が交流する中で「アレもあるよね」「これもあるよね」とアイデアを出せば汎用性のある学びになる



(4) 単元デザイン

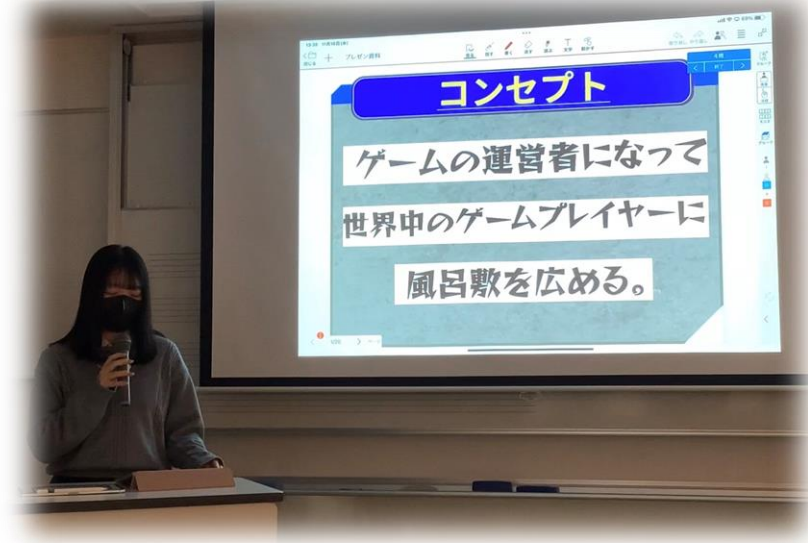
第4次「広げる」⇒6時間

IV
広げる
*45分×6コマ

まとめ 「風呂敷×脱炭素」をキーワードにした5分間プレゼンをする

- ◎45分×6コマの時間配分
 - ・プレゼン準備⇒45分×4コマ
 - ・プレゼン本番⇒45分×2コマ * 「風呂敷の新しい（一押し）使い方」の実演発表を含む
- ◎プレゼンの狙い
 - ・学んだことを話し合い、まとめ、それを伝える過程でより深い学びとしたい
 - ・班毎に設定（コンセプト）を決めさせることで、若者らしい自由な発想で社会を動かすための方策を考えさせたい
 - ・実演発表を入れることで、真結びを含めた風呂敷を立体的に形成する技法を習得させたい
 - ・仲間の発表を聞くことで、風呂敷×脱炭素の可能性を刷り込み、脱炭素という新しい価値観を持って行動変容していくための動機付けとしたい
- ◎プレゼンのアイデア
 - ・ICT教材（iPad）を活用させたい
 - ・可能であればネイティブの先生や留学生にプレゼンを聞いていただき、評価をお願いしたい
 - ・可能であればプレゼンを動画に撮り、YouTubeにあげてみたい
 - ・高校生が風呂敷をオシャレでサスティナブルな文化として発信してくれることを期待したい

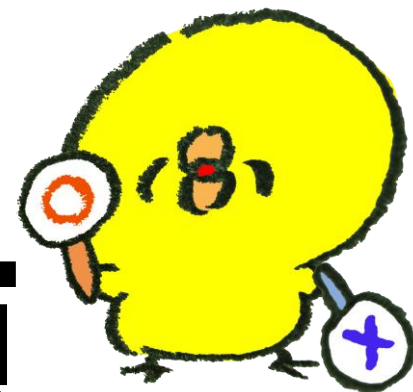
いつか防染法（絞り染め、ろうけつ染め）で世界に一つのオリジナル風呂敷を作らせてみたい



発問と予想される生徒の反応をつむいで
ストーリー性のある単元展開を構想する

(5) 拠点との連携

学校 × 拠点



新しい **E S D** のカタチ

(5) 拠点との連携

① 拠点のコーディネート

⇒ 学校側とのコーディネート

- ・ 単元構想段階から関わる
- ・ 授業の狙い・思いを共有する

⇒ 講師側とのコーディネート

- ・ 「やりたいこと」から「やってほしいこと」へ
- ・ 「説明納得型授業」から「発問中心の応答的な授業」へ
- ・ 答えを言わない

言いたくても
ガマン…なのです



(5) 拠点との連携

② 拠点と連携することの強み

⇒ 専門性の高い情報を享受できる



- ・ 地域の社会特性との関連を重視した情報提供により、「持続可能な地域」という視点での学びを可能にする
- ・ 最新で、なおかつ正確な情報提供が期待できる

教員の側も
勉強になります！



(5) 拠点との連携

② 拠点と連携することの強み

⇒ 体験的な学習活動が可能になる



- ・ 風呂敷の良さを五感を通して理解することができる
- ・ 良い体験は学びに加速度をつけ、行動変容につながる
- ・ クローズエンドではなく、オープンエンドな課題設定によって学習意欲の持続発展が期待できる

五感で触れて
心が動きます！



(5) 学習の成果



① 風呂敷を入口にして自らの価値観とライフスタイルの変革を促す

- ・ 真結びをはじめ風呂敷を立体に形成する技法を習得したことで高校生というライフステージでの風呂敷の活用方法を具体的にイメージすることができた
- ・ 持続可能な未来の創り手という視点で本当の豊かさを問い直し「脱炭素」という新しい価値観の芽が出た
- ・ 同じ高校生から脱炭素に向けての取り組みを聞くことで共感が生まれ、より「自分ごと」として捉えられた

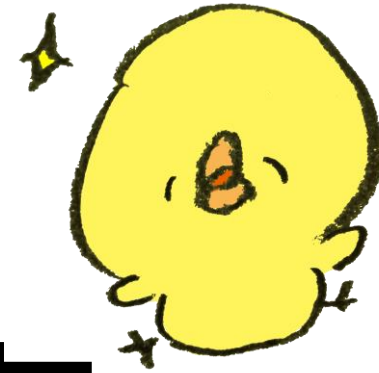
(5) 学習の成果

② 脱炭素社会を実現するための 社会変革を先導する 人材の育成を目指す



将来、脱炭素社会を実現するために
自らがフロントランナーとなってどう社会を動かしていけるか
その具体的戦略を提案できたことで、
社会変革を先導する人材になるための種蒔きができた

(6) これからの課題



ここからが
スタート!

学校 × 拠点

継続した **E S D** の必要性

ありがとう
ございました

